

「みないき農業塾」概要

- ・ 南いきいきファーム推進会が主催している、本格的な農業技術が学べる農業塾です。
- ・ 「退職後に何か始めたい、友人を作りたい」という要望と「農家の高齢化による担い手不足問題の解決」をつなぐことが主な目的で開塾しました。
- ・ 座学と実習を組み合わせた1年間に及ぶ入念なカリキュラムを組んでおり、これまで農業に全く触れたことがない方にも1から就農や趣味農園を行うための手助けをしています。
- ・ また、現在は第12期の活動を行っていますが、塾生としてのカリキュラムを終えた後も、農業塾のOB・OGがアシスタントとして継続的に農業塾の活動に携わることができます。



「みないき農業塾」概要

- ・ 約3000平米の広大な土地を使用して農業を行っています。
- ・ 農場で育てている農作物は、かぼちゃ、にんじん、ズッキーニなど様々で、化学合成農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下で栽培した、安全安心な農作物の証明である「大阪エコ農産物」に認証されるように配慮をしながら農作業を行っています。
- ・ 作った農作物は「体験型農業公園 堺・緑のミュージアム ハーベストの丘 農産物直売所 またきて菜」などに出荷して、そこで得たお金は活動の資金に充てています。
- ・ ビニールハウスでは、ボランティアで農場の整備等をしてもらっている約40名のアシスタントへのご褒美として、現在はとうもろこしを育てています。



「みないき農業塾」概要

- 今期の塾生は20名で、農業を楽しみたい50代の方が多く受講しています。また、アシスタントの方々は退職した60代以上の方が多数を占めています。
- 塾生間でこれまでもいくつもグループが作られ、ハイキングや食事会に行くなど、新たな交友関係が得られていることも継続して塾の活動に参加する動機になっているようです。
- また、引きこもりの方や障がい者の方も塾生として受け入れています。気の合う人と会話をし、自分のペースで作業することができるため、社会参加の足掛かりの場ともなっています。
- これらのほか、近所の幼稚園の子供たちの収穫体験のための農作物も育てています。
- 仲間と一緒に農業をすることが、参加者のやりがいづくりにつながっています。



アシスタントの方の声

- アシスタントの活動は週2回。1回は全員で、もう1回は曜日ごとにチームを決めて集まり、塾生のサポートや農場の整備などを行っています。



(70代・男性)

私は植物や自然が好きで、アシスタントとして活動しています。この農園は環境が充実しており、塾生時代に学んだ知識をさらに深めるのにとってつかけの環境であり、のびのびと活動しています。

私は塾生時代の恩返しがしたいという気持ちから、アシスタントとして活動しています。農業塾での活動以外にも、20平米の土地を借りて趣味農園を行っており、農作物を育てることが生きがいとなっています。



(60代・女性)



(70代・男性)

私は農作業を行うことによる健康維持のために、アシスタントとして活動しています。活動外の日でも、アシスタント同士でゴルフや山登りなどの交流があり、良い仲間に出会うことができたと感じています。

「みないき農業塾」の視察を終えて

- ・ 農家の高齢化による担い手不足問題にも貢献し、1年間という長期間をかけて自らが育てた農作物の収穫・出荷にまで関わることができることで塾生の生きがい、やりがいにも繋がる、一石二鳥な取り組みだと感じました。
- ・ さらに、農作業を通じた健康維持や介護予防の効果を期待することができます。
- ・ アシスタントの方々は曜日ごとにチームを決めて活動しているため、もし欠席した場合には気にかけてくれる仲間がおり、これからの時代に求められている「個人的な関係性を持つ人同士の助け合い」である「互助」の機能があると考えられます。
- ・ また、農業塾OB・OGによるアシスタント制があることで、退職後に外出や人との関わりが希薄になりがちな高齢者の方などの継続的な社会参加の場となっていることも素晴らしいと思いました。
- ・ 活動者の大部分を占める高齢者の方だけでなく、引きこもりや障がい者の方の受け入れも行っていること、子どもたちに農業に触れる機会を設けていることなど、広い視野を持って活動されていることに感銘を受けました。

